

ヒトパピローマウイルス感染における子宮頸部予備細胞の形態的变化に関する 研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2026年3月5日 ～ 2027年12月31日

〔研究課題〕

ヒトパピローマウイルス感染における子宮頸部予備細胞の形態的变化に関する研究

〔研究目的〕

本研究は免疫染色、電子顕微鏡などの手技を用いて、ヒトパピローマウイルス（HPV）感染における子宮頸部予備細胞の形態的变化を明らかとすることを目的とします。

〔研究意義〕

HPV は子宮頸部の予備細胞に感染し、感染した予備細胞を母細胞として腫瘍が発生することがあります。これまでに子宮頸部細胞診において HPV 感染における予備細胞の明確な形態変化を指摘し得た報告はありません。本研究は HPV 感染における予備細胞の形態的变化を明らかにすることによって、子宮頸部細胞診の診断精度の向上に寄与すると考えます。

〔対象・研究方法〕

2025年4月1日から2025年12月31日までに帝京大学ちば総合医療センターで子宮頸部細胞診が実施された患者様を対象として、診断に用いられた検体の余剰分を用いて免疫染色や電子顕微鏡像の撮影を行い、HPV 感染における予備細胞の形態的变化について検討します。研究にはこれまでに診断目的に採取された検体の余剰分を用いますので、対象となる患者様に新たに負担をお掛けすることはありません。

〔研究機関名〕 帝京大学ちば総合医療センター 病院病理部

〔個人情報の取り扱い〕 当院は、ヘルシンキ宣言および臨床研究に関する倫理指針に則り、患者様の人権を守るよう配慮して研究を行います。取り扱うデータは対象となる患者様の、カルテ番号、年齢、診療情報（診断名、病状や治療期間、治療効果等）を使用し、お名前や住所、電話番号などが使用されることは一切ありません。研究に用いた情報は帝京大学臨床研究センターで10年保管の後、廃棄します。また用いた試料は病院病理部で5年間保管後に廃棄致します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。ご協力よろしく願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：氏名 山崎一人 職名：教授
所属： 帝京大学ちば総合医療センター病院病理部
住所： 千葉県市原市姉崎 3426-3 TEL： 0436-62-1211(代表)